学術年会開催にあたって

梅原　健（学術年会長）

HAB 研究機構は、貴重なヒト組織を創薬研究に有効に活用することを目的に創設され、低分子医薬を中心に動物とヒトとの種差の検討やヒトへの外挿、薬物相互作用などの臨床予測に非常に大きな貢献をしてきました。近年、低分子医薬の開発は創薬標的が枯渇していることもあり難易度が高まってきていますが、その一方で、分子生物学の進展に伴い、抗体医薬、核酸医薬、遺伝子治療薬などの新しい創薬モダリティ（治療手段）の開発がさかんに行われております。どのモダリティを開発するにしても、臨床試験をするためには動物などを用いた非臨床安全性評価が必要であり、そこには低分子医薬と同様に動物とヒトとの間に種差が存在しております。また、ニューモダリティについては非臨床段階の情報は限られており、ガイドラインが十分に整備されていないモダリティもあるなど、各社、試行錯誤しながら安全性評価しているのが現状であります。

このような背景から、第 27 回学術年会ではテーマを「モダリティの多様性を支える創薬研究、基盤技術」とし、多様化する創薬モダリティについて、ヒトでどうなるか、動物からヒト、基礎から臨床をどのようにつなげるか、そのために必要な研究や技術は何か、について情報交換、議論して頂くこととしました。

1 日目のシンポジウムでは、近年、アンチセンスや siRNA などの承認薬が出てきております核酸医薬と遺伝子治療薬などの再生医療等製品について、レギュラトリーサイエンス含めて最新の研究を紹介して頂き、また、どのように考えて開発していけばよいのか、討議して頂きます。2 日目のシンポジウムでは様々なモダリティについて種差やヒト外挿への取り組みについて議論して頂くとともに、モダリティの開発に有用な研究ツールや技術を紹介して頂きます。招待講演ではアンチセンス核酸、遺伝子治療薬（CAR–T）、抗体薬物複合体（ADC）の治療効果や課題、今後の展望について治験に関われた先生方よりご講演して頂きます。ニューモダリティについて基礎・臨床での最新情報、現状や課題を知って頂き、患者さんにとってより良いクスリの創出に繋がればと期待しております。

なお、本年会は昭和大学 上條記念館で開催する予定でありましたが、新型コロナウィルス感染症の影響により、インターネットを活用したオンライン学会に変更して開催いたします。ぜひ、沢山の方のご参加をお待ちしております。

参加登録方法

第 27 回 HAB 研究機構学術年会専用ホームページ内「参加要項＆申込」より参加登録を行い、参加費をお支払いください。

- お支払いはオンライン決済と郵便振替がご利用いただけます。
- 本年はインターネットを活用したオンライン開催のため、当日参加はありません。参加をご希望の方は、必ず期限内に事前登録を行ってください。

※詳細は第 27 回 HAB 研究機構学術年会専用ホームページ（https://society.main.jp/hab/index.html）にてご紹介しております。

参加登録費

HAB 研究機構正会員	： 8,000 円
賛助会員	： 8,000 円
非会員	：13,000 円
学　生	： 6,000 円

（要旨集を含む）

事前参加申込期限：2020 年 8 月 31 日

第 27 回 HAB 研究機構学術年会専用ホームページ

https://society.main.jp/hab/index.html

お問い合わせ

特定非営利活動法人ＨＡＢ研究機構
〒 272-8513
千葉県市川市菅野 5-11-13　市川総合病院角膜センター内
TEL　047-329-3563　FAX　047-329-3565
E-mail　secretariat @ hab.or.jp　URL　http://www.hab.or.jp

Non Profit Organization
Human & Animal Bridging Research Organization

第 27 回ＨＡＢ研究機構学術年会

モダリティの多様性を支える創薬研究、基盤技術

Second Circular

ver. 1.0

学術年会長：梅原　健
（大塚製薬株式会社）

日時：2020 年 9 月 3 日（木）～ 5 日（土）

協賛：　日本薬物動態学会　日本薬理学会
日本臓器保存生物医学会　日本再生医療学会
化学工学会バイオ部会

後援：　日本毒性学会　日本臨床薬理学会

2020 年 7 月印刷

第 27 回 HAB 研究機構学術年会　－ プログラム概要 －

1 日目　9 月 3 日（木）　Zoom Webinar 会場

9：10 ～ 11：30　シンポジウムⅠ　核酸医薬

座長：西川 元也（東京理科大学）、小平 浩史（協和キリン株式会社）

核酸医薬の体内動態特性と制御
　西川 元也（東京理科大学薬学部）

アンチセンス核酸医薬品開発のための薬物動態評価
　高草 英生（第一三共株式会社）

RNA 干渉の分子機構と siRNA 分子設計
　程 久美子（東京大学大学院）

血液脳関門のタイトジャンクションを制御してアンチセンス核酸を中枢神経系へ送達する新技術
　銭谷 怜史（東京医科歯科大学大学院）

11：40 ～ 12：30　招待講演Ⅰ

座長：梅原 健（大塚製薬株式会社）

脊髄性筋萎縮症（SMA）の治療の現状と課題
～アンチセンス核酸 Nusinersen（スピンラザ）の治療効果～
　竹島 泰弘（兵庫医科大学）

13：30 ～ 14：20　招待講演Ⅱ

座長：深尾 立（HAB 研究機構）

遺伝子改変 T 細胞を用いたがん免疫療法：造血器腫瘍に対するキメラ抗原受容体（CAR）T 細胞療法の現状と課題
　大嶺 謙（自治医科大学）

14：35 ～ 17：20　シンポジウムⅡ　再生医療等製品

座長：檜杖 昌則（ファイザー）、金子 和裕（大塚製薬株式会社）

再生医療等製品の承認審査のポイント
　丸山 良亮（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）

再生医療等製品の開発に必要な非臨床データパッケージ
　米田 智廣（ノバルティスファーマ株式会社）

Drug Safety Assessment of Preclinical Study in the Development of AAV-Based Gene Therapy Products
　檜杖 昌則（ファイザー）

効果的ながん免疫遺伝子治療法の開発
　岡本 幸子（タカラバイオ株式会社）

霊長類モデルを用いた遺伝子改変 T 細胞療法の安全性評価系の開発
　中沢 洋三（信州大学）

2 日目　9 月 4 日（金）　Zoom Webinar 会場

9：00 ～ 12：00　シンポジウムⅢ
ニューモダリティ薬における種差、ヒト外挿への取り組み

座長：桒原 隆（横浜薬科大学）、平林 英樹（武田薬品工業株式会社）

ニューモダリティ薬の非臨床安全性評価における動物種の選択 / 種差　神吉 将之（アステラス製薬株式会社）

抗体医薬品開発における毒性種差の事例～副作用の予測性向上に向けた取り組み～　南谷 賢一郎（協和キリン株式会社）

バイオ医薬品の免疫原性予測
　三島 雅之（中外製薬株式会社）

非侵襲的経路によるペプチド医薬品の投与戦略 ～ヒトへの外挿性～
　山本 俊輔（武田薬品工業株式会社）

アンチセンス薬のヒトに対する有効性・安全性を予測するモデルとしてのヒト肝臓キメラマウスの有用性の検証
　和田 郁人（リードファーマ株式会社）

12：45 ～ 13：45　スポンサーセッション

アクセリード株式会社

14：00 ～ 14：50　招待講演Ⅲ

座長：木内 祐二（昭和大学）

Advance in anti-cancer drug: ADC
　鶴谷 純司（昭和大学医学部）

15：10 ～ 17：20　シンポジウムⅣ
ニューモダリティ創薬に有用な研究ツール、技術紹介

座長：中島 美紀（金沢大学）、長坂 泰久（アステラス製薬株式会社）

Organ-on-a-Chip による毒性・膜透過性モデルと利用事例の紹介
　江尻 洋子（Mimetas Japan 株式会社）

ニューモダリティ創薬へのイメージング質量分析の活用
　田中 由香里（塩野義製薬株式会社）

ニューモダリティ薬を中心とした PET イメージングの創薬活用
　木村 禎亮（アステラス製薬株式会社）

免疫系ヒト化マウスを用いた抗体医薬品評価
　高橋 武司（公益財団法人実験動物中央研究所）

3 日目　9 月 5 日（土）　Zoom Webinar 会場

13：00 ～ 16：30

第 36 回市民公開シンポジウム
認知症治療の最前線

座長：深尾 立（HAB 研究機構）、梅原 健（大塚製薬株式会社）

在宅医療の立場から
　山口 潔（ふくろうクリニック等々力）

認知症治療薬の開発の現状
　鳥居 慎一（東京大学大学院薬学系研究科）

認知症予防 Now
　朝田 隆（東京医科歯科大学 脳統合機能研究センター）

※敬称略

9 月 3 日、4 日（木、金）　バーチャル・ポスター会場

全日　一般講演（ポスター発表）

日頃の研究成果を共有し、議論していただける場を年会期間中「バーチャル・ポスター会場」としてご用意いたします。多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

◇◇◇

一般講演（ポスター発表）

開催場所：バーチャル・ポスター会場
開催日時：9 月 3–4 日（木・金）全日

P-1： OECD/TG の cytochrome P450 誘導試験における mRNA 測定の有用性　深井 悠貴（高崎健康福祉大学）

P-2： AI による薬剤名予測 – ヒト iPS 神経の MEA データ解析 –　松田 直毅（東北工業大学大学院工学研究科）

P-3： 染色体工学技術により作製した薬物代謝酵素ヒト化マウスを用いた腸管代謝評価モデル
峰岸 元気（千葉大学大学院薬学研究院）

P-4： ヒト脳オルガノイドの MEA 計測による痙攣陽性化合物の応答評価
横井 れみ（東北工業大学大学院工学研究科）

P-5： 核酸医薬品の体内動態評価のための質量分析法の検討
横井 宏之（大塚製薬株式会社）

P-6： ヒト iPS 細胞由来ニューロンの痙攣惹起時における抗てんかん薬応答　石橋 勇人（東北工業大学大学院工学研究科）

P-7： ヒト iPS 細胞由来腸管上皮細胞の粘膜傷害作用及び粘膜保護作用評価への利用　近藤 聡志（大塚製薬株式会社）

P-8： 神経筋疾患の解析のためのマイクロデバイスを用いた三次元神経筋組織の構築
山本 一貴（名古屋大学大学院工学研究科）

P-9： ヒト iPS 細胞由来心筋細胞を用いた薬剤の催不整脈リスクの予測　長野 千富美（大塚製薬株式会社）

P-10：脂質代謝研究におけるヒト肝臓キメラマウス由来肝細胞(PXB–cells)の有用性　加国 雅和(株式会社フェニックスバイオ)

P-11：抗体薬物複合体 Trastuzumab Deruxtecan（T–DXd; DS–8201a）の非臨床における薬物動態研究
岡本 裕美（第一三共株式会社）

P-12：iMatrix テクノロジーがもたらしたヒト幹細胞の培養方法　津山 陽一（株式会社マトリクソーム）

P-13：サンドイッチ培養した HepG2–hNTCP–C4 細胞による胆汁鬱滞肝毒性評価
堺 陽子（名古屋市立大学大学院薬学研究科）

P-14：サリドマイドが神経外胚葉細胞数の増加を促進する
斎藤 長月（長岡技術科学大学）

P-15：ヒト iPS 細胞より嚢状構造物を経由した血管内皮前駆細胞の作出　松永 民秀（名古屋市立大学大学院薬学研究科）

P-16：In vitro 実験系を用いた中分子環状ペプチドの代謝物同定　塩澤 秀幸（第一三共株式会社）

P-17：Microphysiological system を用いたヒト腎臓近位尿細管上皮細胞の腎毒性評価　鶴間 章典（東海大学工学部）

P-18：摘出ヒト新鮮消化管検体を用いた取り込み / 排出トランスポーターを介した薬物輸送特性の解析および薬物のヒト消化管吸収率の予測　道場 一祥（東京大学大学院薬学系研究科）

P-19：数ミクロンの隙間を通るがん細胞の浸潤アッセイ
長南 友太（慶應義塾大学大学院理工学研究科）

P-20：マウス消化管組織より単離した crypt 細胞由来分化細胞を用いた消化管における薬物輸送特性の基礎検討
前田 和哉（東京大学大学院薬学系研究科）

◇◇◇